

序 文

昭和54年度の当研究所の大きな課題は平城宮跡発掘調査が20周年をまた藤原宮跡発掘調査が10周年を迎え、それぞれ記念事業を行なったことと長年の懸案であった庁舎統合移転の最後の二条町新庁舎の改築であった。昭和52・3年度に旧奈良県立医大付属病院奈良分院跡地 8,860㎡と建物 6,540㎡を購入し、昭和53年度に旧病院の付属看護養成所建物を当研究所埋蔵文化財センター研修ならびに宿泊棟に改築し、54年はいよいよ本庁舎の改築を実施した。土地建物購入費8億3千8百万円、建物改築等6億4千万円、計14億8千万円を要し昭和54年度末に庁舎周辺整備を除いて無事完了した。庁舎統合移転の話は、平城さらに飛鳥藤原両調査部の設置、飛鳥資料館、埋蔵文化財センターなど多岐にわたる事業組織の拡充に伴う各庁舎の分散が、連絡総括にも何かと不便を感じていたばかりでなく、昭和44年の奈良国立博物館新館建設に際し当研究所春日野庁舎の撤去が一条件となったことが大きな要因となった。その後10年の経緯を経てようやく統合移転が実現することになった。この間文化庁、奈良県をはじめ関係者省庁さらに各位の少なからざる御高配をいただいたことを心から御礼申上げる。

昭和54年度は平城宮跡発掘調査部43ヶ所、飛鳥藤原宮跡発掘調査部33ヶ所の発掘を実施し、平城宮跡、藤原宮跡の整備を進めると共に、飛鳥資料館に入館者が17万人と前年度に比べ10%順調に増加している。埋蔵文化財センターでは研修9コース、全国都道府県市町村からの受講者167人、さらに埋蔵センター職員の外部指導208ヶ所491日を数えるなど、多方面の事業を実施することができた。さらにこの間研究所学報2冊、研究所資料5冊、発掘並に木簡概報4冊、飛鳥資料館カタログ2冊、埋蔵文化財センターニュース4冊等を出版した。本年報でこれら業務の一端を御理解いただくとともに益々の御鞭撻を御願申上げるものである。

昭和55年9月30日

奈良国立文化財研究所長

坪 井 清 足